

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail: info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

一恵さん 50歳 おめでとう!



パースディケーキを前に一恵さん

一恵さんの命を守るために、医療者をはじめ福祉従事者等、多くの人が幾重にも彼女を見守り、消えそうな命を守り続けてくれました。彼女が、それに応えたら今があると思います。私たち周囲の者は、彼女から

えのき会が、また無認可の団体であった頃から活動に親子参加していた、北野井一恵さんが、昨年12月29日50歳の誕生日を迎えました。

これまでの養護学校時代から現在まで、入退院の繰り返しの中「家」で過ごすより、病院での生活の方が長い人でした。

それだからこそ、重度心身障害のある彼女が、50歳のお誕生日を迎えられたことには、大きな意味があります。

一恵さんの命を守るために、医療者をはじめ福祉従事者等、多くの人が幾重にも彼女を見守り、消えそうな命を守り続けてくれました。



ご両親と一緒に

「生きてこそ」の歌詞に「生きてこそ今ここから始まる」「生きてこそつながってまた広がる」「生きてこそ、その根は太く強くあります。」

言葉を越えた大切なものを受け取りました。「榎の家」で、利用者、職員、ご両親も参加して、ささやかなお祝いをしました。

※※※

「一恵さんの50歳のお誕生日に向けて、お母様から、何かお祝いをしてもらえないかとご要望があり、記念となる日と一緒に祝いさせていただけると嬉しく思い、榎の家、さくらの家の職員全員で話し合い、ご本人やご家族に寄り添った会にしたいと、計画を進めてきました。その中で、「生きてこそ」と一恵さんの好きな沖縄の歌「童神」の2曲をみんなで歌おうと日々練習をしました。

社会福祉法人えのき会
役員一同

寒中お見舞い 申し上げます



2018年

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年も、どうかよろしくお願ひ申し上げます。



この歌詞に一恵さんを思い、心を込めて歌いました。ご両親も参加していただき、素晴らしい会になりました。一恵さんがおられるからこそ、私たちは、一恵さんを支える方々と繋がることができ、共に過ごすことができます。その存在は、とても大きく、一緒に関わらせてもらえる時間を大切に、その時間をより素晴らしいものにするために、これからも、寄り添っていきたく思います。』

(さくらの家・奥村)

【北野井千恵子さん(お母様)より】
幾度も命の危機を乗り越えながら、50歳を迎えられたことに大きな感慨を覚えます。今日まで、多くの人に力を貸して頂いたからこそ、迎えられた50歳だと思います。

だから、一恵もそれに応えようとこれまで頑張ってきたのだと思います。多くの人に愛されて来たことが、一恵の生きる力となり、その愛に応えようと、一恵なりに必死で生きてきたのだと思います。

私も親として、一恵が頑張っている事で逆にエネルギーを貰いながら、これからも頑張っていきたいと思っております。一恵には、このまま一日でも長く、元気で、私たちのそばにいて欲しいと思います。これからも、皆様よりしくお願ひ致します。



「榎の家」が楽しく過ごせる場所に・・・

今年一月より生活介護榎の家のサービスマン管理責任者となりました、平井健二郎と申します。至らぬ点多々あるかと思いますが、皆様よろしくお願致します。私はえのき会に入職しまして8年目となります。初めて、榎の家に見学に来た際に、いわゆる施設とは違うアットホームな雰囲気が良いと思いい榎の家で働くことを希望しました。

今まで榎の家で大切にしてきたアットホームな雰囲気をこれからも大事にしていきたいと思っております。十把ひとからげに利用者を見るのではなく、一人ひとりとじっくり関わる事、また、職員がそのように利用者として過ごせる環境を整えていくことに微力ではありますが力を尽くしていきたいと思っております。

介助を提供することも大事な仕事ではありますが、それだけでなく、あくまで利用者の人生にとって、「よい時間を過ごせる場所」であることに拘っていきたく思います。榎の家では、いわゆる



時間を通して「よい場所」であることに拘っていきたく思います。榎の家では、いわゆる



も適切に対応ができるような仕組みを整えていきたいと思っております。楽しい過ごしの場としての安心、安全に力を入れていければ、と考えています。多少、堅苦しくはありませんが、個人的には、利用者も職員も楽しく笑いあって過ごせることが一番のいい時間なのか、と考えています。

今年も一年、楽しく過ごせるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。
(榎の家 担当・平井健二郎)



重度心身障害の方々が利用者の大半を占めています。重度の方々が楽しく、思い思いの時間を安心して過ごしていただくためにも、職員の個々の技術、経験を高め

さまざまな経験をしながら・・・



今年度、さくらの家では、新たに二組のボランティアの方に来て頂いています。一組目は、ご近所の女性が、朗読仲間のお2人と共に月に1回、利用者の前で朗読会を開いて下さっています。終わると利用者から、同じ本を「もう一回読んで」とリクエストされるほど、楽しま

れています。す。「大きな蕪」では、皆で大きな蕪を作り、朗読に合わせ引っこ抜いたり、小道具等を使ったりして、楽しんで



もう一組は、北堀公園の前にある、老人ホームにある喫茶店で月二回ギター演奏されている方が、さくらの家にも来てくださっています。利用者も、唄う人、楽器を鳴らす人



など、それぞれ自由に楽しく参加しています。さくらの家からも、ギター演奏会がある時に喫茶店へ行くこともあります。どちらのボランティアの方も、終わっ

た後にコーヒーを飲みながら、ほっこりした時間を過ごしてもらっています。また、さくらの家では、一週間に一回、醍醐図書館で、好きな本を借りて職員による朗読会の日を設けています。沢山の本の中から、季節に合わせた本、好きな乗り物の本など、一人では持てないぐらい本を借りてきます。レクリエーションでは、利用者や職員ともに楽しんで、一人が笑顔になると自然と皆が笑顔になっている姿を見て、レクリエーションの企画も増やしていきたいと思

また、楽しみを持ってデイに通所してもらえよう外出の日を設け、活動内容の充実を図っていきたくです。利用者やご家族の思いをくみ取りながら「さくらの家」として何が出来るのか、利用者一人ひとりのニーズにも対応できるように、努めていきたいと思

今後も 法人の理念でもある「地域であたりまえにくらす」を念頭に地域の方との関わりを重視し、利用者が地域に根ざした生き方や暮らし方を、私たち生活支援員がサポートできるようにしていければと思います。
(さくらの家・担当 白石衣代)



今後も 法人の理念でもある「地域であたりまえにくらす」を念頭に地域の方との関わりを重視し、利用者が地域に根ざした生き方や暮らし方を、私たち生活支援員がサポートできるようにしていければと思います。
(さくらの家・担当 白石衣代)



グループホームベルにおきましては、昨秋に、事業所としては初めて、入居者様との1泊旅行に行きました。今年度の最も大きな目標であり、また何分事業所として初めての試みとあり、期待と不安、無事に計画を立て、無事に帰って来られるだろうか…。



どちらかといえは不安の方が大きかったように思います。計画を進めていくあたり、ベル所属の職員との共通した思いとして、入居者様皆様に、「楽しかった」「また行きたい」と言って頂けるような、思っている

けるような旅行を実現したいとの思いがありました。その思いの実現のため、企画担当職員は本当に頑張ってくれたと思います。時期は10月、行き先は愛媛県道後温泉に決定。ご家族様のご厚意で下見にも行かせて頂き、入念な計画を立ていざ出発果たして旅行はというと、出発直後から思わぬハプニングがあったかと思えば、帰りの道中では感動の涙有りと、入居者

ベルの皆で1泊旅行に行きました！

様、職員ともに笑いが絶えず、一言で「ベルらしい」旅行となりました。同行させて頂いた職員としまして、大変貴重な経験をさせて頂き、そのような機会を頂いた入居者様、ご家族様に感謝の思いで一杯です。本当にありがとうございます。

さて、グループホームベルとしましては、来年度に向けては「笑顔」をテーマに取り組んで行きたいと考えております。「笑顔」この一言の中には色んな思いが込められています。まず心身ともに健康で無ければ笑顔は出ない、自分の思いが尊重されていなければ笑顔は出ない、何より楽しくなければ笑顔は出ない…。日々関わらせて頂く職員としても同様だと思えます。

「言うは易し行うは難し」との思いもありませんが、日々入居者様、職員がお互いに支え合い、寄り添い、「笑顔」溢れるグループホームベルを追及していきたいです。

(GH・ベル担当・森下耕児)



「ハックベリー」が立ち上がり9年目を迎えます。ご利用者様が年齢を重ねる中で、体調変化を感じることもありますが、大きな病気にかかることなく過ごしていることが何より嬉しいことです。



昨年は第三者評価を受ける機会をいただき、業務を見直すことができました。法人理念に対する意識の持ち方、業務にあたる際の心構えなど、職員個々が見つめなおし業務にあたることでできています。ご家族様にもアンケートにお答えいただき、ご協力を頂きました。



「ご本人様のニーズと同様、ご家族様のニーズにもしっかりと耳を傾け、意見を交わし、風通しの良い事業所にしていければと考えております。」

今年度は昨年計画できなかった旅行を企画中です。今まで3回のディズニールンド旅行を経験されている6名ですが、そろそろ違う方向へ目を向けてもというご意見もいただいております。

それをふまえ、利用者様の希望、ご家族様の思いをお伺いし、行先

ハックベリーの暮らし 9年目を迎えます！

選定をしていきたいと思っております。ご利用者様が非日常を楽しみ、また職員も一緒に楽しめるような旅行にしたいです。今年企画予定の旅行、月1回実施している外出企画、個人外出など、ご利用者様の楽しみに繋げていくためにも、根底にあるのは日々の安定した過ごし方にあると考えております。

体調把握を行い、少しでも変化がみられた場合、迅速に主治医等に指示を仰ぎ、重症化に繋がらないようにしていきます。また、安心して過ごせる環境づくりも継続して考えていきます。食事面では「好きなメニューを食べたい」というリクエストから生まれた「プレミアムサタデー」。毎週土曜日に6名が順番に好きなメニューを決め、世話人さんに作ってもらっています。選んだメニューを掲示し、周りに知らせる事で話題に上り、食卓での会話が増えました。今年も継続していき、ご利用者様の楽しみに繋げていきます。

目指すは、ご利用者様、一緒に過ごす職員が笑顔が溢れる「ハックベリー」です。どんなことがあっても最終的には笑顔になれるよう取り組んでいきます。

(GHハックベリー 担当・高尾良子)



ハッピーデーになすびのハンバーガー



「新成人のおふたりに寄せて」

これまでのお二人の写真を拝見し、昔から変わることない素敵な笑顔に、思わず笑みがこぼれました。これからも、素敵なおふたりに出会い続けられるよう、楽しいデイにしていきたいと思います。(H)

藻奈さん 玲美さん 20歳おめでとう!



テイルームを賑やかな雰囲気にして下さるお二人に、いつも元気をもらっています。これからも共に笑顔で楽しく過ごせる空間をつくらしていきたいと思えます。(K)



これまで、たくさんの人に愛されて二十歳を迎えられたこと、記念すべき成人式のイベントに、職員として参加できたことを嬉しく思います。これからもお二人と大切な時間を過ごしていきたいです。(Y)

成人式の晴れ姿、お二人とも、とてもお綺麗でした。二十歳という節目の年を、櫻の皆で祝う事ができて本当に嬉しく思います。これからも、一緒に沢山の思い出を作っていきますよね。(S)

地域貢献できる活動拠点の整備をめざして

年末に50歳を迎えられた利用者の誕生会をご両親同席のもと開催することになり、榎の家・さくらの家に通所されている利用者と職員が集う事となった。短い時間ではあったが、共に祝うことができ、過去に入退院を繰り返されたなかこの日を迎えられ、ご両親からこれからもますますがんばると語られた思いに職員は目頭を熱くした。

一度の人生、それぞれの生き甲斐を求め、我々は何処まで寄り添うことができているのか考えさせられると同時に、この一時を共有できたことが明日への活力に繋がると実感した日でもあった。

えのき会は重度の障害のある子どもを抱えたご家族が創設された法人である。重度の障害があっても安心してあたりまえに地域で暮らしていける社会をめざしている。これからの世にも、これまで同様、重度の障害がある生命が誕生していくであろう。

でも、その時、先人が感じてこられた戸惑い・不安を払拭し、新たな命・ご家族ともが少しでも安心して人生を歩んでいけるようにとの願いから、今日の事業に繋がっている。そのなか大きな壁となっているのが人材の確保である。

一人ひとりに向き合える、加重負担のかからない労働環境を整える努力はさることながら、学生や転職者にえのき会の情報を発信していかなければ、出会いすらない時代となり、求人活動には相当のコストが必要になった。その投資をしなければ、新たに地域貢献していくための拠点整備には着手できない。

今年はそれぞれどんな誕生日を迎えられるのであろうか。それぞれが輝く人生となるよう、実践を積み重ね、心豊かに成長できる場の拡充にご支援を宜しくお願い申し上げます。

☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。

☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。

社会福祉法人えのき会

1口 1000円 となっています。1口以上でお願い致します。

00920-6-106339

編集後記

今回のニューズレターに登場の3人の利用者には、30年という歳の開きがあります。

3人の共通項は、片や生まれてから50年、片や20年間、わが子が成人した後も、親の介護が続いています。今後、彼女たちがどういう暮らしをするのか先が見通せない中、親の不安は消えません。

ある与党議員が、わが子の介護を続ける親の前に「日本の伝統ある美しい家族の姿」と称賛しました。老骨にムチ打ってわが子を介護する様を「美しい家族の姿」と言われても、素直に喜べません。

弱者への視点も持ち合わせず、国民の声にも耳を傾けない、大きく右カーブした政権が、今、日本を支配しています。大企業や富裕層にのみ有利な社会が、着々とでき上がっています。

こんな国の形を、私たちは望んでいなかったはず。もう、あと戻りできない所までこの国は、来ているのかもしれない...。(f)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人：(福)えのき会 理事長 古川末子
(法人本部)
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下4-4-8

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1.2.3.4.5.6.7.8の日)発行 定価100円